

# 2006年度 環境活動報告書



2007年6月25日

株式会社群桐産業

# 目次

会社概要	・・・・・・・・・・	1
環境方針	・・・・・・・・・・	2
組織図	・・・・・・・・・・	3
環境目的とその実績	・・・・・・・・・・	4
環境目的とその実績（参考）	・・・・・・・・・・	6
“脱”埋立処理	・・・・・・・・・・	7
美化運動	・・・・・・・・・・	8
その他環境関連、おわりに	・・・・・・・・・・	9

## 会社概要

● 事業者名及び代表者名

株式会社群桐産業  
代表取締役 山口 茂



ISO 14001 認証取得

● 所在地

〒379-2301  
群馬県太田市藪塚町3201

● 事業内容

廃油の収集運搬、再生処理及び販売並びに各種産業廃棄物の収集運搬及び前処理を含む焼却処理

● 事業規模等

設 立： 1984年11月28日  
資 本 金： 6,000万円  
売 上 高： 9億9,600万円（2006年5月期）  
社 員 数： 64名

● 設備概要

面 積：	総敷地	4,665.60㎡
	事務所	251.56㎡（延床面積：416.78㎡）
	油水分離施設	90.00㎡
	焼却施設	118.59㎡
	倉庫	258.69㎡（延床面積：496.84㎡）
主要設備：	収集運搬車輛	35台
	油水分離施設	1式
	焼却施設	1式
	ボイラー	1基

● 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者： 専務取締役 山口 博  
環境保全管理部： 部長 江原 慶治  
(ISO事務局)

連絡先： TEL：0277-78-2479 FAX：0277-78-5084

E-mail：info@grr.co.jp

● 報告対象期間

2006年6月1日～2007年5月31日

# 環境方針

Policy

## 基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

## 基本方針

当社は、産業廃棄物（特別管理含む）の収集運搬及び中間処理、再生重油の販売を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。



事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域社会との協調により一層の環境リスクマネジメントに取り組みます。また、お客様や関係業者、地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染予防の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1) 資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。(省資源)

循環型社会をめざす事業活動として

(2) エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3) 廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4) 環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

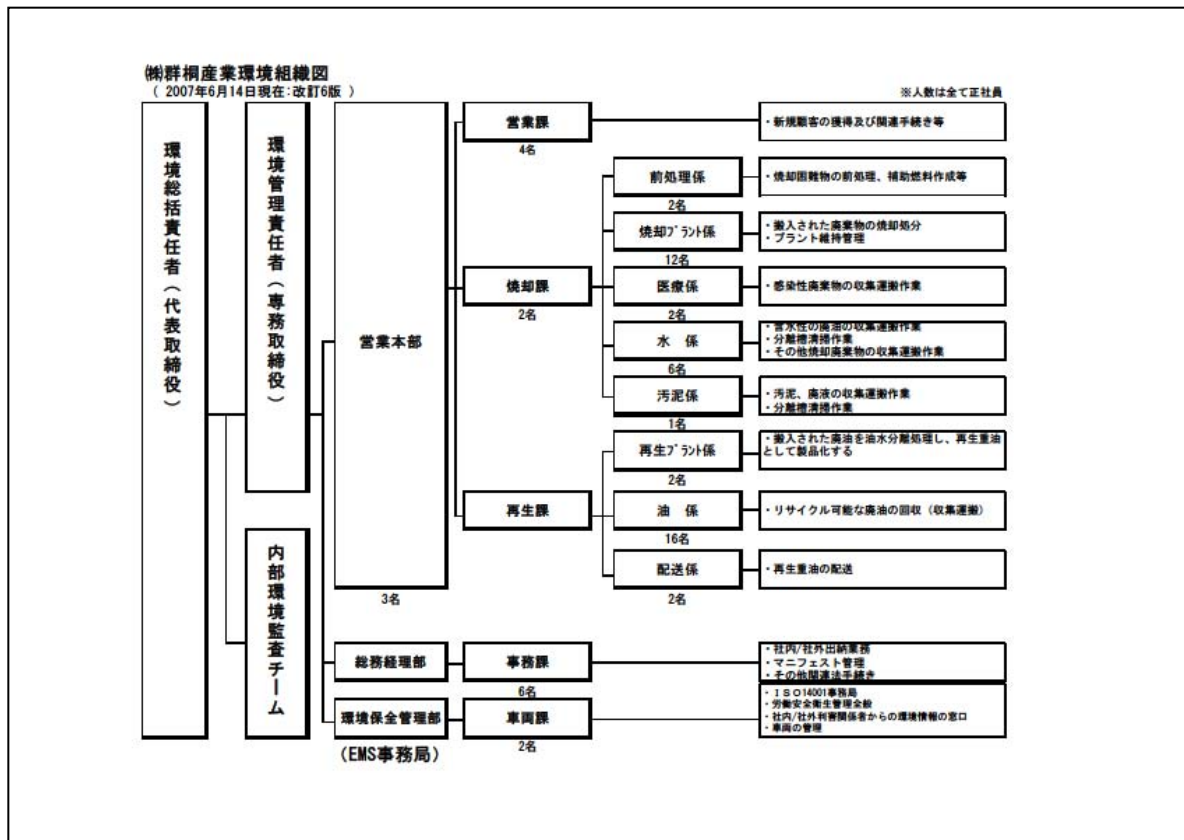
この環境方針は、一般に公表します。

2005年5月11日

株式会社群桐産業

代表取締役 山口 茂

## 組織図



群桐産業の環境組織図は上図のようになっています。

社長を環境総括責任者とし、専務を環境管理責任者としています。また、各課の責任者は、内部監査員としてEMS (環境マネジメントシステム) 事務局と共にチームを編制し、年1回の内部監査を実施しています。

EMS事務局は、環境安全管理部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に係わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的に適切かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

## 環境目標とその実績

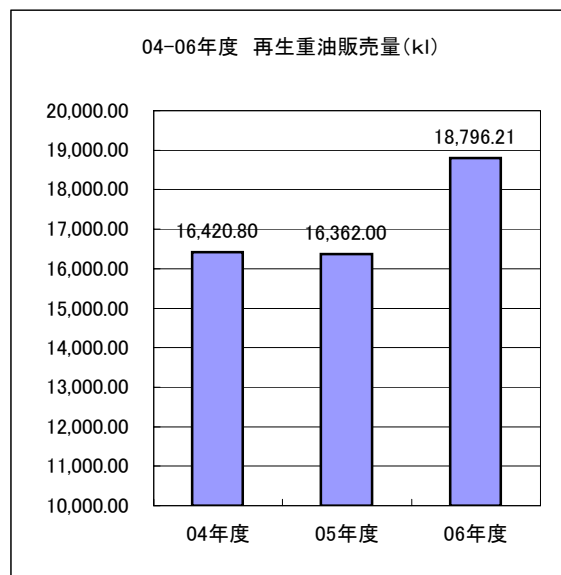
### ● 再生重油販売量UP

「循環型社会に適合し、資源保護に配慮した製品の提供」として、廃油の燃料化を推進しています。これにより新たな化石燃料の使用を削減できるとして省資源化に貢献しています。

06年度目標の16,785.37klに対して実績は18,796.23klとなり、年度目標達成率は111.98%でした。

今年度の大幅な達成の要因は、廃油回収量の増加に加えて、自社焼却炉の燃料としての使用量が大幅に減少したことにあります。焼却炉の燃料として再生重油をなるべく使用せず、廃棄物の持つ熱量を有効に活用することに成功した結果であるといえます。したがって、今まで焼却炉で消費していた再生重油を販売に転換できたことで、他の取り組みに対しても相乗効果をもたらしました。

また、その他の取り組みとして、営業活動、広告による宣伝、社員教育、GPSシステムによる回収効率の向上に努めました。



### ● CO<sub>2</sub>排出量削減

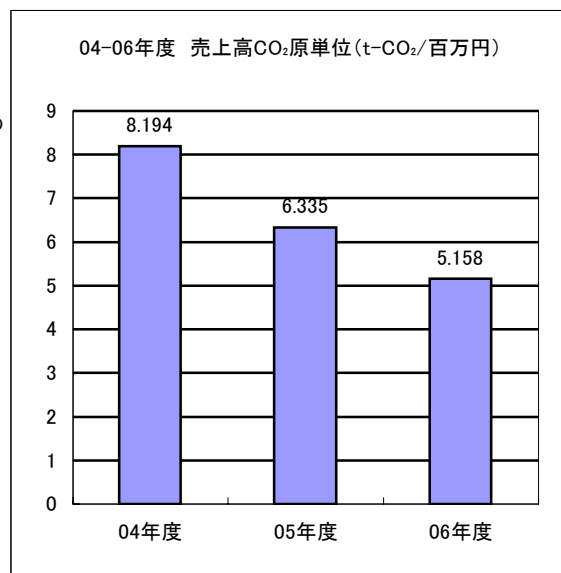
「地球温暖化（気候変動）防止活動」として売上高CO<sub>2</sub>原単位排出量の削減に努めています。

06年度目標の6.273 t-CO<sub>2</sub>/百万円に対して実績は5.158 t-CO<sub>2</sub>/百万円となり、年度目標達成率は119.77%でした。

今年度の大幅な達成の要因は、先にも記したとおり、焼却炉の燃料として使用している再生重油（自社製品）の使用量が大幅に減少したことで、再生重油の販売量が増え、売上高に貢献したことです。電気や車両用燃料は増加傾向にあります

が、これについては焼却施設の安定稼働や事業活動の拡大に起因するものであって、当然に売上高にも反映しています。

また、その他の取り組みとして、事務所内での節電とそれに係わる社員教育、GPSシステムによる車輛動態管理、ハイブリッド車やバッテリーフォークリフトの導入を検討しました。ハイブリッド車については車両入替時に1台導入しました。また、バッテリーフォークリフトについては24時間稼働の為、充電時間の確保が困難であることと予備車両を置くことのコスト対効果の点から今回は見送ることとしました。



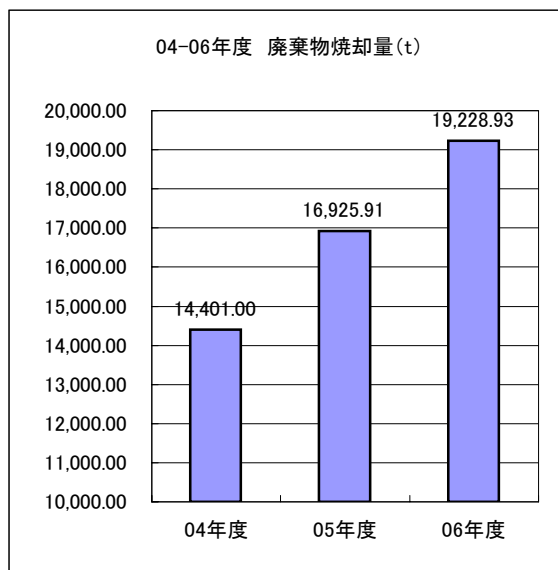
## 環境目標とその実績

### ● 廃棄物焼却量UP

循環型社会を目指す事業活動として、当社では廃棄物の焼却処理後の残渣物（燃え殻等）を埋立処分せずに、熔融固化処理業者へ委託し、建設資材等にリサイクルしてもらっています。そこで、当社にて焼却処理される廃棄物量を増やすことで、廃棄物の埋立量を減らすのと同時に廃棄物の再資源化に貢献できることから、特に処理困難物（感染性廃棄物や廃油類等）の焼却処理量の増加に努めています。06年度目標の17,026.30 t/年に対して実績は19,228.93 t/年となり、年度目標達成率は112.94%でした。

今年度の大幅な達成の要因は、焼却施設に関する適切なエンジニアリングと維持管理により年間を通じて安定稼働ができたことと、そのことにより排出事業者様や収集運搬業者様から大きな信頼を得ることができたことによるものと考えます。さらに、営業活動による新規取引先の獲得においても成果がありました。

焼却施設の維持管理を行うには十分な知識と経験が必要となります。関係スタッフの更なるレベルアップを目指します。



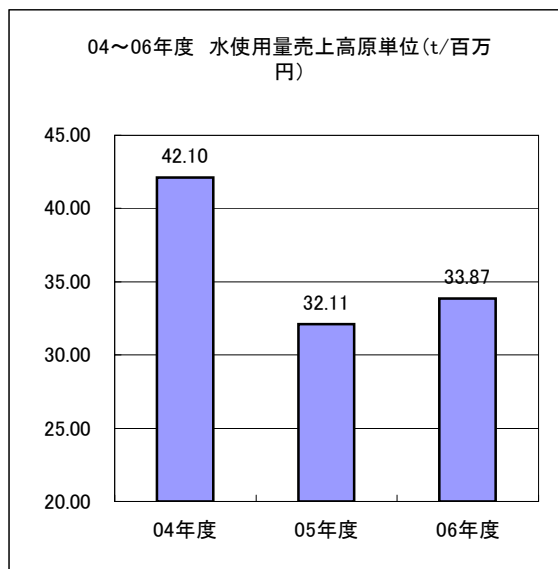
### ● 水の使用量削減

「エネルギーの効率的利用」として、売上高原単位で水の使用量の削減に努めています。

06年度目標の31.98 t/百万円に対して実績は33.87 t/百万円となり、年度目標達成率は93.89%でした。

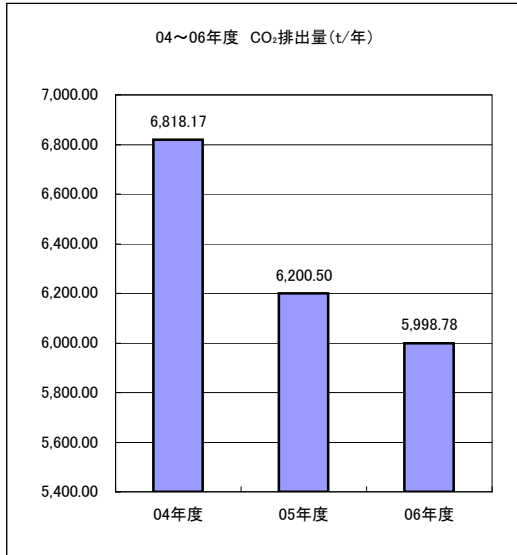
今年度は目標を達成できませんでした。原因は、焼却施設の稼働率が上がったことで排ガス冷却に使用する水の量が増えたことによります。当社の水使用量は焼却施設で大半を占めています。また、排ガスの処理に使用する水を節約することは

非常に難しく、まず燃焼ガス温度を800℃以上（2秒以上）にする必要があります。次に概ね200℃以下になるように冷却する必要があります。この冷却過程を経ることで排ガス中のDXN類の再合成を防ぐことから、ここで水の使用を削減することは適切ではありません。しかし、06年度中に企画した雨水排水の利用について07年度に実現することが確定しましたので、今後はその効果に期待しているところです。

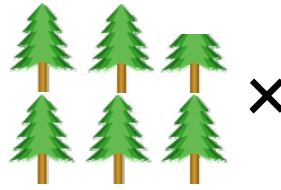


## 環境目標とその実績（参考）

### ● CO<sub>2</sub>排出量の削減



04年度排出量 6,818.17 t  
 06年度排出量 5,998.78 t  
 04年度比削減量  
819.39 t



×

スギの木にして  
 約58,528本分の  
 CO<sub>2</sub>吸収量に相当

※スギの木のCO<sub>2</sub>年間吸収量＝約14kg

環境省/林野庁「地球温暖化防止のための  
 緑の吸収源対策」より

### ● 大気環境測定結果

#### 1. ダイオキシン類

対象施設：焼却施設

資料採取日：2006.06.26 証明書発行日：2006.08.10

項目	測定値	基準値
排ガス	2.8 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	5 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰（燃え殻）	0.00000084 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g
飛灰（ばいじん）	0.18 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g

#### 2. ばい煙

対象施設：焼却施設

項目	測定結果		基準値
	資料採取日：2006.06.26 計量証明発行日：2006.07.11	資料採取日：2006.12.16 計量証明発行日：2007.01.09	
ばいじん濃度	0.039 g/m <sup>3</sup>	0.009 g/m <sup>3</sup>	0.15 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量（K値）	0.13 m <sup>3</sup> /h	0.13 m <sup>3</sup> /h	17.5 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	43 ppm	50 ppm	250 ppm
塩化水素換算濃度	140 mg/m <sup>3</sup>	150 mg/m <sup>3</sup>	700 mg/m <sup>3</sup>

対象施設：ボイラー

項目	測定結果		基準値
	資料採取日：2006.06.26 計量証明発行日：2006.07.11	資料採取日：2006.12.16 計量証明発行日：2007.01.09	
ばいじん濃度	0.16 g/m <sup>3</sup>	0.22 g/m <sup>3</sup>	0.3 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量（K値）	0.13 m <sup>3</sup> /h	0.19 m <sup>3</sup> /h	17.5 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	77 ppm	89 ppm	180 ppm

## “脱”埋立処理

### ● リサイクル

当社で焼却処理された廃棄物の残渣物である「燃え殻」と、排ガス処理に伴って回収された「ばいじん」は、埋立処分場ではなく熔融固化処理業者へ処理委託しています。熔融固化処理とは、廃棄物を高温で溶かして有害物質を無害化または揮発させ、ガラス質で安定した性状の「熔融スラグ」と、金・銀・銅などを含んだ「熔融メタル」を回収することです。揮発した鉛・亜鉛・カドミウムなどは「熔融飛灰」として捕集され、リサイクルされます。

### 熔融スラグの用途



熔融スラグ（徐冷）

マットに貼り付け

川岸に敷き詰め

護岸工事施工

※ 徐冷スラグは、ゆっくり冷やして固めたスラグのことで、強度が高く護岸工事などに利用されます。



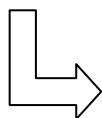
熔融スラグ（水砕）



インターロッキングブロック



大型ブロック



透水性景観舗装材



透水性景観舗装材



施工例

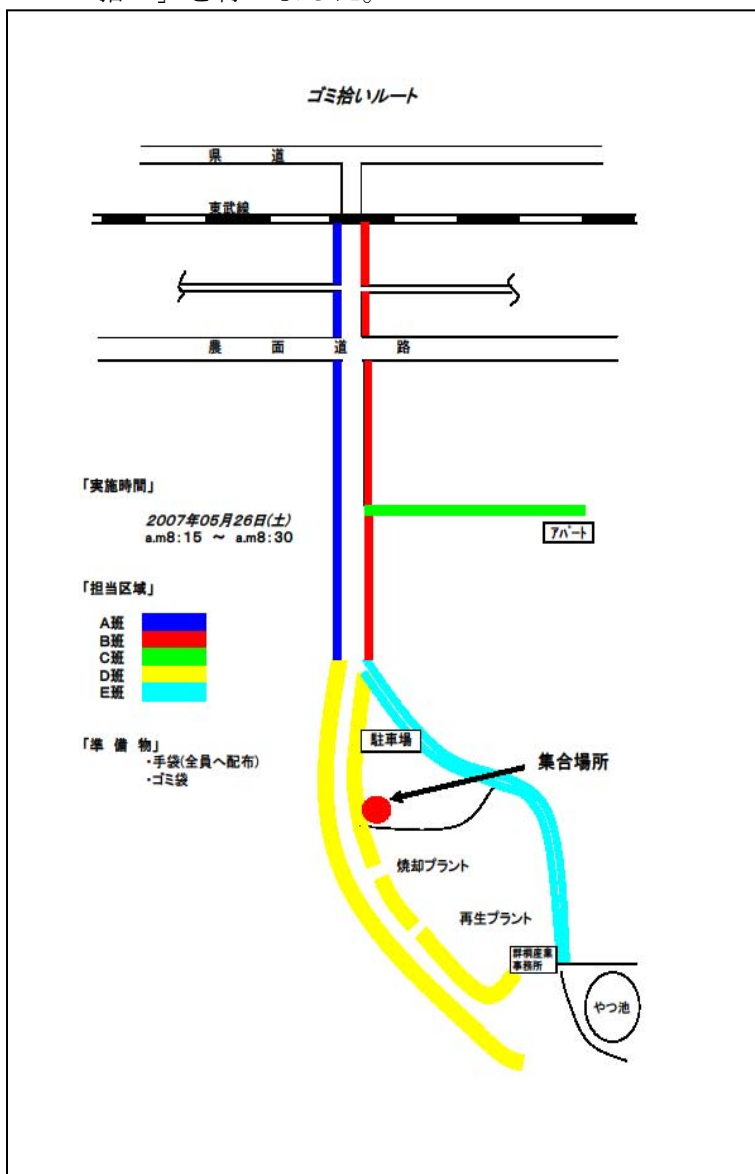
※ 水砕スラグは、急激に冷やして固めたスラグのことで、粒度が小さいので砂の代替品として、コンクリート2次製品などに利用されます。

このほか、道路の路盤材や土質改良材などにも利用されています。今後の循環型社会の形成において、従来の埋立処分をなるべくしないで再資源化に努めることが必要であり、同時に普段の生活や事業活動における資源の消費を抑えていくことで、地球温暖化の防止や持続可能な社会の構築に貢献できるものと考えます。

## 美化運動

### ● 会社周辺一斉ゴミ拾い

2007年5月26日の朝8:15から8:30まで、定例の「会社周辺一斉ゴミ拾い」を行いました。



A班、B班の様子



C班の様子



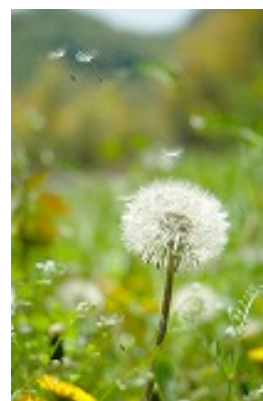
回収したゴミをまとめます。

ゴミの分別は以下のとおりとしました。

1. 「ビン・ガラス類」
2. 「缶・鉄くず類」
3. 「燃やせる物」

毎回様々なゴミが回収されています。中でも「空き缶」や「吸殻」が多く目立ちました。そのほか、弁当や惣菜の空容器やビニール系も多くありました。

年々ゴミの回収量は減っているように感じますが、それでもまだゴミが落ちていることに変わりはありません。



## その他環境関連

### ● 環境情報記録

当社では環境情報を入手したときには3つのランクに分けて記録・対応しています。

A・・・ 緊急事態情報、法規制から逸脱する内容、苦情

B・・・ 自主基準から逸脱する内容

C・・・ 一般環境情報（A、B以外で且つ非苦情を除く）

2006年度は合計8件の情報がありましたが、全てCランクのものでした。

そのうち5件が法改正に関する事で、2件は行政からの通知、1件は地元地域の都市計画に関するものでした。

そのほか常日頃から環境に関する情報は入手・伝達されていますが、当社の主たる業務は環境関連である廃棄物処理であることから、ここでは特に重要な事項についての記録・対応をしています。

## おわりに

私たちの日常生活からは、直接、間接を問わず必ず廃棄物が発生しています。そして、その廃棄物は必ず適正に処理しなければなりません。また、廃棄物の処理責任は排出者にあると法律で定められています。

これからの社会では、私たち一人ひとりが資源や廃棄物について正しく認識し行動することによって、環境の保護や循環型社会の形成に貢献することが望まれています。

当社は、ゼロエミッションの実現を目指し、リサイクルできない廃棄物を溶融処理することによって減容、無害化し、「溶融スラグ」という砂の代替資源として再利用する計画を進めています。

### 循環型社会に向けてのイメージ





## 株式会社群桐産業

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201

TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084

ホームページ <http://www.grr.co.jp>

メールアドレス [info@grr.co.jp](mailto:info@grr.co.jp)

2007年 6月25日発行



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6% [www.team-6.jp](http://www.team-6.jp)